

表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	東アラブ社会変容の構図
発行年	1990
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00013780

東アラブ社会変容の構図

長沢栄治編

東アラブ社会変容の構図

長沢栄治編

アジア経済研究所

研究双書 No 392
長沢栄治編 『東アラブ社会変容の構図』

英文表題および目次

Title

Higashi Arabu Shakai Hen'yo no Kōzu
(Social Change and Revolutionary Movements in the Arab East)

Edited by

Eiji NAGASAWA

Contents

Part I, Chapter 1~2 : Akira USUKI

The Development of National Question in Palestine

— A Phase of 'Nation' through the Communist Party in the Mandate Period —

Part II, Chapter 3~5 : Eiji NAGASAWA

The Dispute on Agrarian Capitalism and Development of Communist Movement in Egypt

Part III, Chapter 6 : Hiroshi KATŌ

A Note on Peasants Movement in Modern Egypt

— Transformation of Egypt in the Process of Modernization as Reflected in Peasants Movement —

Part III, Chapter 7 : Hidemitsu KUROKI

Patron-Client Relationship in the Modern Lebanese Society

Part III, Chapter 8 : Tadashi OKANOCHI

Technology Transfer and Social Change in the Arab East

— A Case of Modern Iraq —

(Kenkyū Sōsho (IDE Research Series) No 392)

Published by the Institute of Developing Economies, 1990
42 Ichigaya-Hommura-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162, Japan

東アラブ社会変容の構図

うすき あきら
臼杵 陽 (佐賀大学教養部専任講師)

ながさわえいじ
長沢栄治 (アジア経済研究所地域研究部)

かとう ひろし
加藤 博 (一橋大学経済学部助教授)

くろき ひでみつ
黒木英充 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手)

おかの うちただし
岡野内 正 (法政大学社会学部助教授)

(執筆順)

東アラブ社会変容の構図

研究双書392

1990年3月30日発行© 定価4532円(本体4400円)

編者 長沢栄治

発行所 アジア経済研究所 東京都新宿区市谷本村町42
電話 東京(353)4231(代)

発売所 アジア経済出版会 東京都新宿区市谷本村町42
電話 東京(353)1640
振替 東京5-143692

印刷所 コロニー印刷 東京都中野区江原町2-6-7

ISBN4-258-04392-3-C3033



定価 4532円(本体4400円)

ISBN4-258-04392-3-C3033

— 目 次 —

はしがき

第 I 部	委任統治期パレスチナにおける民族問題の展開	
	— パレスチナ共産党にみる「民族」の位相 —————・白杵 陽	
	序 — 研究史と課題の設定	4
第 1 章	パレスチナ共産党における民族問題	15
	— 「民族」の間隙の共産主義運動 —	
第 1 節	パレスチナにおける共産主義運動の起源とその展開 ...16	
	パレスチナ共産党の起源／社会主義者労働者党 (MPS) とシ オニズム／パレスチナ共産党のコミンテルン加盟と直面する 諸問題	
第 2 節	「歎きの壁」事件の評価をめぐって	28
	「歎きの壁」事件の経過／「歎きの壁」事件をめぐる評価／コ ミンテルン執行委員会決議 (1929年10月)	
第 3 節	「民族」の間隙の共産党 — 「アラブ化」から分裂へ — ...39	
	パレスチナ共産党第 7 回大会 (1930年12月)／1933年10月蜂起 とパレスチナ共産党／第 7 回コミンテルン世界大会とパレス チナ共産党／アラブ大反乱 (1936～39年) とパレスチナ共産 党／パレスチナ共産党の事実上の分裂／パレスチナ共産党の 最終的分裂	

第2章	パレスチナにおける資本主義の発展の特殊性と アラブ労働運動	67
第1節	アラブ労働運動の展開 —— 第1回パレスチナ・アラブ労働者会議を中心に ——	68
	アラブ労働運動の時期区分／パレスチナ共産党労働者フラク ツィアの活動／第1回パレスチナ・アラブ労働者会議／1930 年代のアラブ労働運動	
第2節	パレスチナにおける資本主義の発展 —— その特殊性をめぐる議論を中心に ——	80
	おわりに	96

第 II 部	エジプト資本主義論争の構図と背景 —— 長沢栄治 序	102
--------	--------------------------------------	-----

第3章	民族革命期におけるエジプト共産主義運動	109
第1節	共産主義運動の展開過程	109
	民族革命期前半(1941～48年)／民族革命期後半(1949～65年)	
第2節	民族革命期の運動を貫く三つの傾向	128
	民族主義的国家権力の下での運動の「統合」について(ある いは体制との自己同一化について)／組織の分裂と統一をめぐ る問題点／運動の「エジプト化」をめぐる	
第4章	エジプト資本主義論争の起点 —— 「論争」の系譜とイブラヒーム・アーメル『土地と農民』 ——	147
第1節	論争の成立条件とその系譜	147
	今日における資本主義論争／正統派＝通説の形成	
第2節	イブラヒーム・アーメルの『土地と農民』	168
	アーメルと著作の評価／『土地と農民』の内容紹介／〈補論〉	

第5章 農業資本主義論争の構図	
— 『土地と農民』批判とエジプト農村における共産主義運動 —	205
第1節 サーレフによる『土地と農民』批判	205
サーレフによる『土地と農民』批判の主要な論点／農業資本主義論争の争点	
第2節 エジプト農村と共産主義運動	228
民族革命期の共産主義運動とエジプト農村／カムシーシ村事件と封建制廃止委員会	
おわりに	252

第 III 部

東アラブにおける社会変容の諸側面

第6章 近代エジプト農民運動についての覚書	
— 農民運動からみた近代エジプト社会の変容過程 —	加藤 博
はじめに	261
第1節 近代エジプト農民運動研究事情	265
第2節 近代エジプト農民運動研究における諸問題	273
第3節 近代エジプト社会の変容と農民運動	281
結びにかえて	290
第7章 近現代レバノン社会におけるパトロン・クライアント関係	
—————	黒木英充
はじめに	299
第1節 パトロン・クライアント関係の概念枠組み	300

第2節	近現代レバノンにおける発展	304
	19世紀初頭の山岳地域と海岸都市部／19世紀中葉以降の社会 変容／ザイーム・ズィルム関係の成立	
第3節	パトロン・クライアント関係への挑戦の波	325
	おわりに	329

第8章 東アラブにおける技術移転と社会変容

— イラクを中心として ————— • 岡野内正

	はじめに — 世界システムと技術移転	337
第1節	中東における技術移転の諸相	339
第2節	イラクにおける技術移転と社会変容	347
	第一次大戦まで／両大戦間期／小括	

凡 例

本書では、アラビア語の転写・表記について次の原則に従った。

1. ローマ字での転写文字は、アラビア語のアルファベットの順に, 'b, t, th, j, ḥ, kh, d, dh, r, z, s, sh, ṣ, ḍ, ṭ, ḏ, ' , gh, f, q, k, l, m, n, h, w, y を用いる。
2. 母音は a, i, u, 長母音は ā, ī, ū, 二重母音は ay, aw と転写する。
3. 語頭のハムザ, 語末のター・マルブータは省略する。
4. 定冠詞は, 後続太陽文字との同化の有無にかかわらず, つねに al- と転写する。ただし, カナ表記においては, 村落名をはじめとして煩瑣と感じられたものについて定冠詞を省略した。その場合, 原則として初出の固有名詞の後に () としてローマ字の転写表記を付すこととする。
5. 引用文献のローマ字転写においては, ①著者名, ②書名, ③出版地, ④出版社, ⑤出版年の順とし, ①と④については定冠詞等を除く語頭を大文字に記し, ②については全て小文字に統一した。③は慣用の英語の地名 (たとえば, al-qāhira ではなく Cairo) を用いた。
6. カナ表記一般については, できるだけ現地の発音に近い表記に努めた。そのため若干従来の表記と異なるものもある (たとえばアシュートではなくアスュート)。